

# セミヨン・アラノヴィッチ特集

5.21[土]22[日]28[土]29[日]

再評価の高まるロシア映画、旧ソ連の名門撮影所レンフィルムの当館所蔵作品から、セミヨン・アラノヴィッチ監督(1934-1995)を特集します。乾いたリアリズムと詩情が織りなす傑作を美しい35mmフィルムでご堪能いただけます。

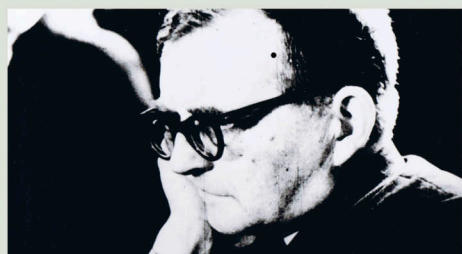


5/21[土]11:00  
5/28[土]14:00

## 海に出た夏の旅

1980年 | カラー | 35mm | スタンダード | 88分 | 監督:セミヨン・アラノヴィッチ

1942年夏、食糧基地を設置する任務のため少年たちが無人島に送りこまれる。実話をもとに、厳しい自然環境やドイツ軍との遭遇など、極限のサバイバル状況での少年たちの成長を描く。



5/22[日]11:00  
5/29[日]11:00

## ヴィオラソナタ・ショスタコヴィッチ

1981年 | モノクロ | 35mm | スタンダード | 80分  
監督:セミヨン・アラノヴィッチ、アレクサンドル・ソクーロフ

旧ソ連の国民的大作曲家ドミートリイ・ショスタコヴィッチの政治に翻弄された波乱万丈の足跡をたどり、全編に楽曲をちりばめながら偉大な芸術家の胸中に迫った異色のドキュメンタリー。



5/21[土]14:00  
5/29[日]14:00

## トルペド航空隊

1983年 | カラー | 35mm | スタンダード | 95分 | 監督:セミヨン・アラノヴィッチ

第二次大戦中、北極圏ノルウェー海域でソ連軍はドイツ軍に対して激しい空中戦を交えた。監督自身がパイロットだった体験をもとに、淡々とした隊員の日常と圧倒的な戦闘を鮮烈なコントラストで描く。



5/22[日]14:00  
5/28[土]11:00

## 私はスターリンのボディガードだった

1989年 | カラー | 35mm | スタンダード | 77分 | 監督:セミヨン・アラノヴィッチ

スターリンのボディガードとして30年間つねにスターリンのそばにいた男・ルイビンの証言とニュース・フィルムや写真資料等の構成により旧ソ連の現代史を振り返る。

### 上映スケジュール

●各回入れ替え制です●15分前に開場します●開映30分後以降のご入場はお断りします。

5/21[土]	11:00   海に出た夏の旅	5/28[土]	11:00   私はスターリンのボディガードだった
	14:00   トルペド航空隊		14:00   海に出た夏の旅
5/22[日]	11:00   ヴィオラソナタ・ショスタコヴィッチ	5/29[日]	11:00   ヴィオラソナタ・ショスタコヴィッチ
	14:00   私はスターリンのボディガードだった		14:00   トルペド航空隊

### 「セミヨン・アラノヴィッチ特集」料金

当日券のみ・1作品につき

- ◆一般 600円 ◆ 大学・高校生・65歳以上 500円 ◆ 小中学生・友の会会員 400円
- ◆ 未就学児・障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名・被爆手帳をお持ちの方 無料

### 今後の上映予定

◎6/4[土]・5[日]・11[土]・12[日]

### 社会派エンタテイメント

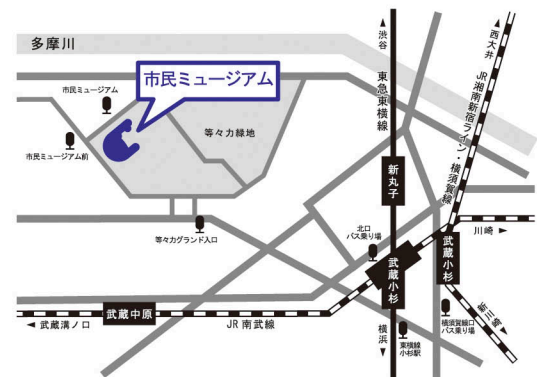
今こそ見たい骨太な傑作!

- 『箱根風雲録』(1952/山本薩夫)
- 『女ひとり大地をゆく』(1953/亀井文夫)
- 『狼』(1955/新藤兼人) など

◎6/19[日]・25[土]~26[日]

### ゴジラあらわる!—「映像のまちかわさき」連携上映—

- 『ゴジラ60周年デジタルリマスター版』(1954/本多猪四郎)
- 『ゴジラ・ミニラ・ガバラ オール怪獣大進撃』(1969/本多猪四郎)
- 『ゴジラVSキングギドラ』(1991/大森一樹)



### アクセス

JR・東急「武蔵小杉駅」からバスで約10分

- 北口1番乗り場から川崎市バス [杉40] 市民ミュージアム行終点下車 [杉40] 中原駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ [溝05] 溝口駅前行「市民ミュージアム前」下車すぐ
- 南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス [川33] 市民ミュージアム行終点下車
- 横須賀線口2番乗り場から東急バス(※土曜・休日のみ) [杉05] 市民ミュージアム行終点下車
- 当館に専用駐車場はありません。お車でのご越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。

川崎市 市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)  
TEL.044-754-4500 <http://www.kawasaki-museum.jp>

# ポーランド映画祭<sup>2015</sup> in 川崎

川崎市市民ミュージアム

2016.4.29[土]—5.5[月]

5/2(月) 休映  
主催:川崎市市民ミュージアム、ポーランド広報文化センター、マーメイドフィルム、ポーリッシュ・フィルム・インスティテュート、ポーリッシュ・フィルムメイカース・アソシエーション、CULTURE.PL、スコピャ・フィルム 協力:フィルムスタジオ・カドル、フィルムスタジオ・ゼブラ、CRF 後援:駐日ポーランド大使館 配給:マーメイドフィルム 配給協力:コピアボア・フィルム

# POLAND FILM FESTIVAL 2015 in KAWASAKI



「エヴァ」は配りた! ©KADR Film Studio

# ポーランド映画祭<sup>2015</sup> in 川崎

2016.4.29<sup>金祝</sup>—5.5<sup>木祝</sup> ※5/2(月)休映

## アンジェイ・ワイダと戦争

映画を通してたびたび戦争の記憶を描いてきたアンジェイ・ワイダは、第二次世界大戦中、父が「カティンの森事件」の犠牲となり、自身も対独レジスタンス運動に参加したことはよく知られています。ワイダの「戦争三部作」に加え、日本で初上映となる貴重な作品『サムソン』を上映します。



©Akson studio, Telewizja Polska, S.A. Agencja Media Plus



©FILMOTĘKA NARODOWA, STUDIO FILMOWE "OKO", STUDIO FILMOWE "TOR", STUDIO FILMOWE "KADR", STUDIO FILMOWE "PERSPEKTYWA", STUDIO FILMOWE "ZEBRA"

4/29[金・祝]11:00 | 5/5[木・祝]14:00

### 世代

1954年 | モノクロ | DCP | 88分  
監督:アンジェイ・ワイダ

“ポーランド派”の先駆的作品と目されるワイダの長編第一作。貧民街出身の青年が共産主義者の抵抗運動に参加している女性に恋をするというシンプルなストーリーの中に、矛盾した性格をもち苦悩を抱えた悲劇的キャラクターの登場、ネオレアリズモ風の撮影、『灰とダイヤモンド』のツイプスキの出演等ワイダ作品のエッセンスが見られる。



©STUDIO FILMOWE "KADR"

4/29[金・祝]14:00 | 5/4[水・祝]11:00

### 地下水道

1956年 | モノクロ | DCP | 97分  
監督:アンジェイ・ワイダ

ワルシャワ蜂起に参加したイエジ・ステファン・スタヴィンスキの脚本によるワイダの傑作。対独レジスタンスが地下の下水道の中で繰り広げる死闘をドキュメンタリー風に演出した本作、とりわけ光と影を巧みに使った撮影は後年のホラーやサスペンスジャンルの作品に多大な影響を与えている。カンヌ映画祭審査員特別賞を受賞。



©STUDIO FILMOWE "KADR"

4/30[土]11:00 | 5/4[水・祝]14:00

### 灰とダイヤモンド

1958年 | モノクロ | DCP | 104分  
監督:アンジェイ・ワイダ

ヴェネチア映画祭で国際批評家連盟賞を受賞し監督ワイダの名を一躍世界に知らしめた歴史的な作品。戦時中レジスタンス活動に参加し、戦後はテロリストとなって悲惨な最後を遂げる青年。ロマン主義的な主人公のキャラクター、寓意を多用した演出、シャープなモノクロ映像で描かれる青春の栄光と挫折は、今見ても切なく圧倒的な強度をもつ。



©KADR Film Studio

4/30[土]14:00 | 5/5[木・祝]11:00

### サムソン

1961年 | モノクロ | DCP | 118分  
監督:アンジェイ・ワイダ

1939年～43年のワルシャワを舞台に、ユダヤ人居住区の墓掘りに助けられたユダヤ人の運命を描く。旧約聖書の英雄サムソンになぞらえた主人公の過酷な体験は、戦時下における不条理を見るものに印象づける。今回が日本での初上映。ポーランド内でもこの映画の存在を知る人は少ないといわれる幻の作品。若き日のポランスキーも出演している。

## ポーランド映画の都・ウッチ

ポーランドのウッチ国立映画大学(1948年設立)は、米ハリウッド・レポーター誌が選ぶ2012年版「世界の映画学校ベスト25」にも選ばれた名門映画大学。ワイダ、ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキをはじめ、『幸せのありか』のマチエイ・ピェブシツァなど近年に至るまでポーランド映画界を牽引する作家たちを送り出しています。また、19世紀に世界屈指の繊維工業地帯として発展したウッチは、ポーランド・ドイツ・ユダヤの民族と文化が共存する都市でしたが、二度の大戦で大きな経済的打撃を受けました。しかし戦後に見事な復興を遂げ、現在はワルシャワに継ぐポーランド第2の都市と呼ばれています。ポーランド映画を支えてきたウッチの文化と魅力をご紹介します。



©STUDIO OKO

5/1[日]11:00

### 身分証明書

1964年 | モノクロ | DCP | 76分  
監督:イエジー・スコリモフスキ

ウッチ映画大学在学中に、主にウッチ市で撮影されたスコリモフスキ自作自演の長編第一作。毎日を無為に過ごしていた24歳のアンジェイはある日兵役を志願する。兵役につくまでの16時間を追いながら、主人公の社会に対する怒りや行き場のない焦りを表現。物語性の否定や斬新なカメラワーク等、巨匠の才気溢れる演出に痺れる1本。



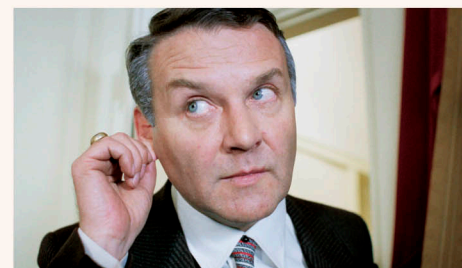
©KADR Film Studio

5/1[日]14:00

### エヴァは眠りたい

1957年 | モノクロ | DCP | 99分  
監督:タデウシュ・フェムリスキ

幻想とリアルを織り交ぜた不条理でダークなユーモアとルネ・クレール風の抒情性をあわせもつフミエレフスキ(1954年ウッチ映画大学卒)の大ヒット作。娯楽喜劇として作られた戦後初の作品といわれる。全住民が警官か泥棒という奇妙な町に若い娘エヴァがやってくる物語は、ポーランドの現実を暗示しているかのようだ。サン・セバスティアン映画祭グランプリ。



©FILMOTĘKA NARODOWA, STUDIO FILMOWE "OKO", STUDIO FILMOWE "TOR", STUDIO FILMOWE "KADR", STUDIO FILMOWE "PERSPEKTYWA", STUDIO FILMOWE "ZEBRA"

5/3[火・祝]11:00

### ヴァバンク

1981年 | カラー | DCP | 109分  
監督:ユリウシュ・マフススキ

ウッチ映画大学を卒業後、70年代後半から活躍しているマフススキの大ヒット作。30年代のワルシャワで刑務所帰りの詐欺師が活躍する犯罪コメディ。米映画の名作『スティング』を想起させる一級の出来栄で、ポーランドで知らない人はいないとも言われる。同キャストとスタッフで続編も作られた。また主演俳優は監督の父親である。タイトルはva banque(仏)に由来し、ギャンブラーの隠語で、「全財産を賭けること」を意味する。



©STUDIO FILMOWE "PERSPEKTYWA"

5/3[火・祝]14:00

### 約束の土地

1974年 | カラー | DCP | 169分  
監督:アンジェイ・ワイダ

70年代のワイダ(1953年ウッチ映画大学卒)は文学作品を数多く映画化しているが、なかでも国内外で高い評価を得ているのが本作である。ウワデウスワフ・レイモントの小説をもとにユダヤ、ポーランド、ドイツという異なった民族に属する若き親友3人が工業都市ウッチで身を立ようとする物語は、青春群像劇であると同時に、19世紀の繁栄する大都市の肖像にもなっている。

**上映スケジュール** ●各回入れ替え制です●15分前に開場します●開映30分後以降のご入場はお断りします

4/29[金・祝] 11:00   世代 14:00   地下水道	5/1[日] 11:00   身分証明書 14:00   エヴァは眠りたい	5/4[水・祝] 11:00   地下水道 14:00   灰とダイヤモンド
4/30[土] 11:00   灰とダイヤモンド 14:00   サムソン	5/3[火・祝] 11:00   ヴァバンク 14:00   約束の土地	5/5[木・祝] 11:00   サムソン 14:00   世代

**ポーランド映画祭2015in川崎**  
**「アンジェイ・ワイダと戦争」「ポーランド映画の都・ウッチ」特別料金**  
 当日券のみ・1作品につき ※スカラチケットはお使いいただけません。  
 ◆一般・大学・高校生・65歳以上 1000円 ◆小中学生・友の会会員 800円  
 ◆未就学児・障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名・被爆手帳をお持ちの方 無料

## 戦後ポーランド映画の系譜

《ポーランド映画祭2015 in 川崎》に引き続いて、当館所蔵フィルムより戦後ポーランド映画の名作を上映します。国際的に活躍するアグニエシュカ・ホラントの貴重な作品などをお楽しみください。

5/7[土]14:00 | 5/14[土]14:00 | 5/15[日]14:00

### 熱病

1980年 | カラー | 35mm | 118分  
監督:アグニエシュカ・ホラント

ハリウッドやヨーロッパなどで国際的に活躍するアグニエシュカ・ホラントの初期の傑作。20世紀初頭、ポーランド社会党の過激派が計画した爆弾テロの挫折を冷徹に描く。

5/8[日]11:00 | 5/15[日]11:00

### 白鳥の歌

1988年 | カラー | 35mm | 86分  
監督:ロベルト・グリンスキ

ウッチ大学に学んだ俊英グリンスキの代表作。シナリオ作りに苦勞する脚本家をコミカルに描く。1989年にポーランドでプロダクションの自主製作による映画が認められる以前に発表された。

5/7[土]11:00 | 5/8[日]14:00 | 5/14[土]11:00

### マテウシの生活

1967年 | モノクロ | 35mm | ビスタ | 82分  
監督:ヴィトルト・レンチンスキ

ウッチ大学で撮影と監督を学び、ノルウェーでドキュメンタリー制作に携わったレンチンスキの劇映画第一作。美しい田園地帯で静かに暮らす兄妹のもとに一人の男が舞い込み、波紋が広がる。

### 上映スケジュール

5/7[土] 11:00   マテウシの生活 14:00   熱病	5/8[日] 11:00   白鳥の歌 14:00   マテウシの生活
5/14[土] 11:00   マテウシの生活 14:00   熱病	5/15[日] 11:00   白鳥の歌 14:00   熱病

●各回入れ替え制です●15分前に開場します  
開映30分後以降のご入場はお断りします

**「戦後ポーランド映画の系譜」料金**  
 当日券のみ・1作品につき  
 ◆一般 600円  
 ◆大学・高校生・65歳以上 500円  
 ◆小中学生・友の会会員 400円  
 ◆未就学児・障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名・被爆手帳をお持ちの方 無料